

WA!



No. 13



「ほとけの子ども」

ご本山において、平成23年4月から親鸞聖人の750回大遠忌法要が厳修されています。宗門では親鸞聖人750回大遠忌を期に重点項目として「お寺を子どもたちの居場所に」の願いのもと、キッズサンガ運動に取り組んでいます。キッズサンガの願いは、平成22年に設立50周年を迎えた少年連盟の教化活動の輪をさらに拡げていきたいという願いと同じです。

この2つのご勝縁を期に、「親鸞聖人750回大遠忌・少年連盟設立50周年記念大会 少年教化指導者のつどい」が6月9日に京都で開催されました。全国から少年教化活動に携わる人たちが一堂に集い、親鸞聖人のお徳を讃えながら、各教区の方々と現在の活動状況や、今後の活動を充実拡大していく為にどうすれば良いかなどを話し合いました。そして、水谷修先生の記念講演「子どもは今」私たちにできること」では、とにかくできることを実践していくことの大切さを学びました。

一人でも多くの子どもたちが阿弥陀さまのご縁に遇い、「ほとけの子ども」として育くまれるように、私たちのできることを考え、実践していきたいと思えます。

「指導者学習会」 「子どもの心に近づくために」

平成23年6月29日、広島別院 大会議室を会場に前期指導者学習会が行われました。講師に「元RCCラジオ」ちびっ子パンザイ、インタビュアー 川島由美さんを迎え、子どもの心に近づくためにとの講題でご講演いただきました。

川島由美さんは呉市出身で、昭和64年1月からRCC（中国放送）ラジオ「ちびっ子パンザイ」2代目インタビュアーとなり、平成20年6月末の番組終了まで足かけ20年番組制作に携わられました。平成10年から教職員研修会や保護者会において、子ども達の心の開き方



話を引き出す心得などの講演活動をされています。

このたびの講演でも、ご自身が420カ所余りの番組取材を通しての経験と、延べ1万2千人の子どもの達と出会い、3千200本の番組から得たことを私たちにお話くださいました。ラジオ番組組に出演させていただき、言葉の一語一句を丁寧にしっかりと話されました。

講演の中で先生から、今も昔も子ども達は何も変わっていないこと、子ども達に失望したことはないこと、子ども達を宝物のように感じていることなどのお話を聞きました。そして、子ども達一人ひとりを大事に思い接するには、子ども達の目線に立ち、一人ひとりの言葉を両手で

抱き上げ、汲んであげるようにとの指導をいただきました。子ども達に対して、私達が上手な聞き手と成り、話し甲斐のある相手となるには、子どもの話の頭を振ってしっかりと傾き、良く笑い、「それから、それから」「それで、それで」などの繰り返す言葉で、話を進行してあげることが良いと教わりました。これはリフレイン言葉と言われ、言葉を繰り返すことで、やさしく聞こえるそうです。



私が一番関心を持ち聞かせていただいた話は、子どもの叱り方についてでした。悪いことをした子を叱る時には、その子の良い所をたくさん言って褒めてから、なぜそのようなことをしたのかを聞き、諭すことが良いと教わりました。



このたびの指導者学習会では、私達がどのように子ども達と接して行けばよいか、具体的にとても解りやすく教えていただきました。これから日曜学校や子ども達との関わり合いの中で、しっかりと役に立ててゆきたいと思えました。

Kids Sangha

親鸞聖人750回大遠忌法要

子どものつどい in 本願寺

— 本願寺キッズサンガ —

児童念仏奉仕団 — 参加報告

平成23年7月25日(月)～30日(土)まで本山にて、キッズサンガ・児童念仏奉仕団が開催されました。

例年、この時期には児童念仏奉仕団の行事がありますが、今年は親鸞聖人の750回大遠忌法要にあたり、大規模の参加人数となりました。

本願寺に到着して、受付をすませた後に御影堂に集合して、1時半より行事①「ピカピカ・わっくわくタイム」が催されました。



参加者が4つのグループに分かれて、それぞれが順繰りに、お掃除、書院・飛雲閣見学、記念写真、クイズラリー、「ありがとうの手紙」を書こう、を行いました。今年のクイズラリーは、境内の外に出て龍谷ミュージアムや伝道院なども見て回るものでした。

「ありがとうの手紙」を書こうは、例年なかったように思います。日頃、お世話になっていた方へ感謝の手紙を書くものでした。子ども達は慣れぬ手紙を一生懸命書いていました。私も実家の母へ感謝の手紙を書いたところ、後日、母から嬉しそうな電話がかかってきました。折に触れ、感謝の念を伝えることはとても大切なあと、改めて感じました。

行事②の「であいのつどい」では、「らいはいのうた」をおとめとしてご法話をお聴聞し、参加団体を紹介してもらい、というものでした。「らいはいのうた」は、皆、日曜学校等でおとめしているのでしょうか、とても上手なものでした。ただご法話の後に拍手が起

こつたので、後で、スタッフの方が「ご法話の後はお念仏するものですよ」と教えていただきました。

行事②が夕方5時に終わると、いったん宿舎に帰って入浴・食事です。夜7時には行事③「きょうの宵あそび」があるので、なかなかせわしないものでした。「きょうの宵あそび」では、北境内地に30ぐらいの夜店が出され、子ども達は夢中になって遊んでいました。中にはストラックアウトなど長い行列ができていました。中央にはステージが用意され、大道芸人のジャグリング、平安高校による吹奏楽演奏、ライブコンサートが行われ、たくさんの人だかりができていました。特に印象に残ったのは、演奏の盛り上がり、司



会をした2人の女子吹奏楽部員のトウクがテレビタレント並にとっても軽妙だったことでした。

2日目は、朝5時に起床し6時からのお晨朝に参拝しました。お晨朝が終わると、宿舎に帰り朝食と荷支度です。帰敬式を受ける子どもは帰敬式を受け、宿舎に帰りました。

朝9時半になりますと、御影堂に集まり、雅楽の説明をクイズ形式等で教えてもらいました。そして、10時からいよいよ親鸞聖人750回大遠忌法要が音楽法要で修行されました。大勢での法要は荘厳なもので大変感動的でした。私は恥ずかしながらおとめへの練習はほとんどしていませんでしたが、何となくついていけるフレーズと一緒におとめすることができました。法要後、行事④「きつとまたあえる」が催されました。この行事では、長年にわたって記念で奉仕された団体に表彰がなされました。また、蓮如上人500回大遠忌のときに保存されたタイムカプセルが開封され、当時のメッセージが紹介されました。そして最後にみんなで「今日の日はさようなら」を合唱して、解散となりました。

このご縁は私にも、子ども達にとっても良いご縁になったと思います。後に大きくなって振り返り良いご縁であったなあと思い返すことを念願しています。



マツダスタジアム スタジアムツアー 2011



集合場所はスタジアムの正面です



ツアー開始 ガイドさんと一緒に
左側スタジアム外のモニュメント



スポーツバー内部 バットの先端は、ライトスタンドに突き出ています



「跳べ！赤松くん天谷くん」人形も間近でゆっくり観ることができます。

広島東洋カーブの本拠地「MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島」の施設を良く知ってもらうためのスタジアムツアーに参加しました。

普段は、なかなか入れないブルペン、パーティーフロア、スポーツバー、砂かぶり席、記者席などを見学できます。

所要時間は約80分で、参加費は大人が1,000円、子供が500円です。スタジアムツアーへの参加は予約制となっています。広島東洋カーブ公式HPで公開していますので、実施日・要項などをご確認のうえ申し込みください。



パーティーフロアからの眺め 落ち着いて観戦できそう！



ライト側スタンド地下にあるスポーツバーです



ベンチに入り、気分はプロ野球選手

実際にスタジアムツアーに参加して、MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島をご紹介しますが、普段見ることができないスタジアムの裏側や、そこで働く人達の空気感そしていつもとは違う目線でスタジアムに触れて、カーブやプロ野球選手のことをもっと身近に感じることができました。子どもはもちろん、大人も

大はしゃぎの見学ツアーです。

是非とも一度、体験してください。より試合が深く観戦できますよ！

予約受付はホームページを参照してください。
<http://www.carp.co.jp/facilities11/stadiumtour.html>



ブルペン内で、カーブ選手が使用したバットで素振り